

第49回 積丹町文化祭

芸能発表の部 (11月9日)



展示の部 (11月1日～3日)



第49回積丹町文化祭（主催・文化祭実行委員会・河岸悟郎委員長）が、総合文化センターを会場に開催されました。展示の部は11月1日から3日まで行われ、保育園児や小学生、町内文化団体や一般町民の方々から出品された書道や絵画、生け花や陶芸など

計876点の作品が展示され、期間中411名の方が参観に訪れました。また3日には、美国婦人会によるバザーも行われ、多くの人で賑わいました。9日には芸能発表の部が行われ、婦人会などによる歌や舞踊、B & G合唱クラブの息

の合ったコーラスのほか、町内小中学校の児童生徒徒によるダンスや器楽演奏、リズムなわとびなど日頃の練習の成果を披露しました。この日訪れた180名の参観者からは、演目が終わるたびに、大きな拍手が送られていました。

栄誉をたたえて ～スポーツ賞表彰式～

積丹町体育協会（下山達也会長代行・5団体）が主催する「スポーツ賞」の表彰式が10月30日、B & G海洋センターで行われ、各地で行われたスポーツ大会で優秀な成績を収めた方々に、下山会長代行から表彰状と記念品が贈られました。

■個人の部

・第34回後志学童軟式野球新人戦 兼 高山旗争奪少年野球大会
（平成30年9月15日～17日・喜茂別町、留寿都村、真狩村）

優勝 古平野球スポーツ少年団
積丹町在籍メンバー

原 汰綺くん 鈴木 雅乃さん 村木 健太くん
高橋 颯太くん 鈴木 鼓堂くん 村木 葵さん



■団体の部

・タグラグビー大会（2018年～2019年）

積丹スポーツチャレンジクラブ
タグラグビー部

外国人観光客の避難を誘導

北海道原子力防災訓練

11月17日、原子力災害が発生したと想定し、宿泊中の外国人観光客の避難誘導を行うことを目的とした北海道原子力防災訓練が、「お宿かさい」で行われました。

訓練では、泊発電所で放射性物質が漏えいしたことを想定。警戒事態となり、その後さらに事態が悪化したため、宿泊していた外国人観光客など23名がバスで札幌市に避難しました。



「お宿かさい」は、町からの通報を受け、宿泊客に対して、翻訳機能付きメガホンを使い、日本語・英語・中国語・韓国語の4カ国語で避難の準備をするように案内しました。

また、宿の集合場所には周辺の地図を掲示し、宿泊客には4カ国語で記載した非常事態を伝えるチラシを配布するなど、何が起きているかを分かりやすく伝えるよう工夫していました。

観光客からは、「なぜ避難する必要があるのか?」、「道路は通行可能か?」など、さまざまな質問が出され、翻訳機を使って回答しました。

お宿かさいの別所範一さんは、「翻訳機に慣れておく必要があると感じた。避難先までの道路状況等の情報収集が必要になる。」と、今後に向けた課題が見られた訓練になりました。

放射線ってなに?

「原子力防災学習会」

放射線の基礎や原子力防災についての知識を深める学習会が、11月6日、美国小学校と総合文化センターでそれぞれ行われました。

講師に、札幌医科大学附属病院の佐藤香織さんを迎え、放射線が人体に与える影響や放射線治療など医療で使用される放射線の役割、原子力災害時の対応などを学びました。

また美国小学校では、5・6年生の児童19人を対象に、簡易測定器を使用した放射線量の測定や放射線の動きを観察する実験が行われ、児童たちは、身の回りにどれだけ放射線が含まれているかなどを熱心に調べながら、楽しそうに授業をしていました。



介護者への心地よい関わり方は?

～よいち福祉会主催～

『介護技術研修会』

よいち福祉会主催の『認知症介護技術実践研修会』が10月26日、総合文化センターで行われ、約50人が参加しました。

講師に、静岡県在住の作業療法士で、全国各地で介護の講演を行っている安藤祐介氏を迎え、『体感！利用者に心地よい介護技術～関わり編～』と題した講演が行われました。

講演では、認知症の方に対して

実践する

するありがちな行動を振り返りながら、より良い介護の方法として声掛けや接し方など、ストレスを感じさせない介護の仕方を学んだほか、介護者への話し方や待つ姿勢などの実践も行われました。

参加者は「ここで学んだことを明日から実践します。」と、現場で実践することを約束していました。

